

## 「諸鈍小・中学校の諸鈍シバヤ伝承活動の取組」

### 1 学校名

瀬戸内町立諸鈍小・中学校

### 2 学年・人数

小・中学生男子 8人

### 3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所 10月下旬（4回）諸鈍小・中学校体育館
- (2) 発表の日時・場所 令和2年11月1日 諸鈍小・中学校体育館

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

- (1) 名称 しよどんし ばや 諸鈍シバヤ

- (2) 由来

奄美大島の南，加計呂麻島（かけろまじま）の諸鈍集落に伝わる諸鈍シバヤは，源平の戦いに敗れて落ちのびて来た平資盛（たいらのすけもり）一行が，土地の人々と交流を深めるために伝えたのが始まりと伝承されています。

旧暦9月9日に諸鈍集落の大屯神社で披露されています。

- (3) 構成等

出演者は全員男性のみで構成され，手製のカビディラという紙面と，陣笠風（じんがさふう）の笠をかぶり，囃子（はやし）と三味線（しゃみ）の伴奏によって演じます。

かつて20種余りあったという演目は，即興的狂言，人形劇を含めて現在では11演目が受け継がれています。

小中学生もかつては，諸鈍集落の児童生徒のみが参加していましたが，現在では諸鈍集落以外の児童生徒も参加しています。

### 5 保存会や地域との連携の具体

シバヤ保存会の方に指導を受けて，諸鈍シバヤの歴史を学び，踊りの練習を行った。保存会との連絡は教頭が窓口となって連絡を取っている。昨年度，2週間毎日練習し，ほとんどの児童生徒が覚えていたこともあり，今年度は学習発表会へ向けて合計4回練習をして細かい部分の指導を受けた。一部の児童については昼休み・放課後に練習することもあった。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

例年は、児童生徒と男性教職員が演目を披露していたのだが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大屯祭が中止になり、大屯神社で披露することができなかった。そこで学習発表会(11月1日)の中で披露することになった。

島唄・島口・諸鈍シバヤが地域に絶えず受け継がれてきていることを再確認し、地域を大切にするとともに、伝統文化を守り伝えていくことができている。

## 7 取組の様子



体育館での練習の様子



保存会会長による指導



学習発表会での披露



参加した児童生徒たち

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童生徒】

- ・ 小学1年生で初めて参加した。保育所時から、シバヤが大好きだったので、来年はぜひ大屯祭で踊りたい。
- ・ これからもみんなで力を合わせて諸鈍シバヤを守っていききたい。

### 【教職員】

- ・ 児童生徒たちのシバヤへの思いが伝わったとてもいい演舞だった。夜の練習もとても意欲的であった。

### 【保存会から】

- ・ 毎年途切れないようにせめて学校でも踊る機会があってよかった。子どもたちの踊りは完璧だった。
- ・ 進学や就職で島を離れてもいつか古里に戻って伝統を引継いでほしい。

### 【地域の方から】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で大屯祭が中止になり寂しかったが、児童生徒たちの様子を見て、元気をもらった。